

リハビリテーション科学部・井上恒志郎助教が明治安田厚生事業団「第33回若手研究者のための健康科学研究助成」を受賞

平成28年10月21日(金)付で、本学リハビリテーション科学部・大学教育開発センターの井上恒志郎助教が「第33回(2016年度)若手研究者のための健康科学研究助成(公益財団法人・明治安田厚生事業団)」を受賞し、12月16日(金)に学士会館で行われた助成金贈呈式に参加しました。

本助成金は、健康科学の一層の発展と人びとの健康づくりに貢献する若手の研究に対して贈られるものです。井上助教は、「一過性中強度運動による海馬CA1を介した記憶固定化の促進に関わる神経機構の解明—逆行性トレーサーを用いた検討—」という研究テーマで応募し、111件の一般課題の中から見事に採択されました(採択件数10課題)。

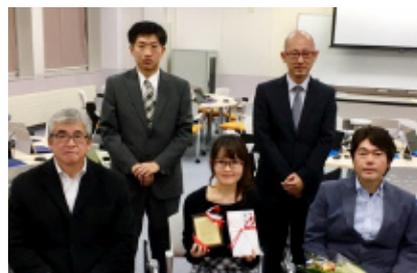
井上助教は、これまでの研究において、学習後に運動を行うと記憶の定着(固定)が増強され、それが海馬のCA1と呼ばれる領域を介して調節されていることを報告しています。この海馬CA1は、中脳腹側被蓋野や扁桃体など、情動を司る様々な脳部位からの入力を受けており、今回の研究課題では、運動によるどのような情動変化が海馬CA1を介した記憶固定化の促進に寄与しているのかを解明することを目的にしています。情動という新たな視点から運動による記憶定着の増強を担う機構解明に取り組むユニークな研究として、今後の研究推進が期待されます。



薬学部・二瓶裕之教授、心理学部・西牧可織助教が、私立大学情報教育協会の「ICT利用による教育改善研究発表会 平成28年度 奨励賞」を受賞

私立大学情報教育協会の「ICT利用による教育改善研究発表会」において、本学薬学部・二瓶裕之教授(情報センター長)、心理学部・西牧可織助教(大学教育開発センター)が発表した研究テーマ「ICT活用による能動的学修支援と学修成果の可視化を融合させた教育改善の実践」が「平成28年度 奨励賞」を受賞しました。

この研究は、能動的学修を全学的に推進するために、電子シラバスを開発して毎回授業の到達目標や事前・事後の学修課題及び資料などの学修情報を一括提示し、ICTを活用して学生の学修行動をモニタリングして学修成果を多角的に可視化、フィードバックすることで学生・教員に振り返りが可能となり、反転授業と協働学修を組み合わせた学修成果の改善、知識修得に向けた主体性の育成につながる教育改善が見られたことが高く評価され、今回の受賞となりました。



前列左から:森田勲教授、西牧可織助教、二瓶裕之教授
後列左から:蔵桃淳・学務部職員、阿部大地・同

学友会の活動について

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長(学長)の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長の他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。

学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかるために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次長、大学祭実行委員長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。

学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみなさんで、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにて、活動紹介(大学祭実行委員会)およびクラブ紹介(体育局・文化局)
5月	学友会運営委員会
6月	九十九祭(大学祭実行委員会)
7月	学友会運営委員会
8月	全日本歯科学生総合体育大会(体育局所属クラブ参加)
9月	
10月	
11月	文化週間(文化局) 秋季球技大会(大学祭実行委員会)
12月	
1月	
2月	
3月	